

槍ヶ岳 北鎌尾根 山行報告



槍ヶ岳 北鎌尾根

山域：北アルプス南部

2019年8月2日～4日

メンバー：CL 佐藤 小宮山 松本（記）

計画が天候不順で流れて約1年、体力作りやスキルアップに励んでるつもりが、老化のスピードと相殺されあまり変わり映えしないまま本番の日がやってきてしまいました。

北鎌を2.3年前に知ったという私のような未熟者が足を踏み入れて良いか悩みましたが、終わってみるととても充実した山行でした。

ルートの詳細はネットに情報が沢山あるので感じたままを記録にしていよいよ、と言われ

報告書はこれから行こうとしている人にはどうでも良い事ばかりかもしれませんが、強く言いたいのは行きたい人はぜひぜひ行ってみたい、ということです。

前夜 20時千葉発 沢渡で車中仮眠 5:30 タクシーで上高地へ

1日目・・・6:00 上高地～10:00 槍沢ロッジ～11:45 大曲～13:00 水俣乗越～15:30 北鎌沢出合（幕営）

★アプローチ

沢渡や上高地は意外と空いていた。徳沢でソフトクリーム、槍沢ロッジでラーメンを食べてエネルギーチャージ、沢沿いの気持ち良い道を進んでババ平を過ぎ大曲から水俣乗越へ。

標高400mの急勾配を登った分を今度はまたすぐ下る。下り始めのザレ場は噂通りとても急なので木の枝や草をつかんで恐る恐る降りていく。

途中からは雪渓下り。リーダーより雪渓下の沢の音に注意して歩くよう指示がある。少し前に一ノ倉沢でシュルンドの恐ろしさを見たので用心深く足を置く。最後まで携行を迷ったチェンスパイクは無くても大丈夫だった。

傾斜が緩くなりゴーロ帯になってからも長くて、岩の角を使ってリズム良く歩くのにも飽きてくる。ケルンが要所に積まれていた。もしエスケープするとしたらここから戻るのだが想像するとうんざりする。15時過ぎに雨が降り始めカッパを着て北鎌沢の出合より少し下った場所に幕営。出合の近くでは先客が行水していた。

薪を拾いに行ってる合間にSさんが火を起こしてくれたので焚火決起会！

静かで贅沢な沢キャンプはやっぱり最高と思ったのも束の間、再び雨が降り始めそのうち雷も鳴り始めたのでテントに入り明日の晴れを祈って 20 時前に就寝。



ここまでは、荷も軽いのでハイキング気分



乗越した後の長い下り・気を抜かず辛抱強く下りる



どこまで下るのやら天上沢



湿った靴下を焚火で乾燥

2 日目・・・4：45 北鎌沢出合～ 8：00 北鎌沢コル～12：00 独標～16：00 北鎌平～
17：50 槍ヶ岳山頂～19：00 ヒュッテ大槍

★北鎌沢出合い～北鎌沢コル

2 時半起床。しとしと雨が降っている様子を見ながらゆっくりご飯を食べー応支度をする。

今回は超軽量化、したつもりだ。昨日のご飯はアマノのカレー、今朝はお湯を入れるだけのパスタにした。

出発予定の 4 時になってもやみそうにないし空はどんより。気分もどんより。

S さんはこの時何となく発せられた私たちの無言のプレッシャーを感じていたらしい。しかしそんなオーラにも負けず

前日の天気予報と空を見て G0 の判断が出たので予定より遅れて雨具を着て出発！北鎌沢をコルに向け標高差約 600m ちょいを登る。

事前情報では右とか左とか色々な記録が書かれているけど、現場に行ってみて私が明確に分かったのは最初の二俣の分岐だけだった。

ほとんど沢登りといつていいほど豊富に水はあり、2100m を過ぎても枯れずに十分汲める量が流れていた。その点では随分楽が出来た。

各自 3～4 リットル程の水を汲み、核心とも言えるコル直下の花咲き乱れる草付きの急な斜面へと突入。

いつの間にか日が出て青空になっていた。

そんな美しい場所だが、所々で破けた衣類や何やら人工物の残骸を目にする事があり神妙な気持ちになる。

際どいツメは S さんが先行して登り易い場所を指示してくれたおかげで怖い思いをせずにコルへと到達、

ホッと一息。自分たちが北鎌に登る資格があるのか試されているようだね。と S さんが言ったが、合格だったのかな。そもそも挑んでいるつもりは全く無く歩かせてもらっているという謙虚な気持ちなんだけど！

ちなみにクライマーホイホイには引っかからなかったようだった。コルで装備を整え次の目標、独標へ向かう。



ナメ滝 ほとんど沢登り



詰めは急な登りが続く。去年の白毛門沢を思い出す



コルに残置の青い袋には「食べてください」とカップめんやウイスキーが入っていた。Sさんの後ろからルートファインディング

★コル (P7・8) ～独標 (P10)

Sさん、M、Kさんの順で少し間を開けた距離でついていく。先行者も後続者も居なかった。

P8やら天狗の腰掛は教えてもらわないとイマイチ分からなかったが、どっしりとした独標は私でも確認できた。



写真で見覚えがある独標基部のあたりで後ろからソロの男性が来て挨拶する。トレラン並みの恰好だ。

初の北鎌で昨日の夜、新穂高から来たと言う。頭の中で??が出たがその場は突っ込まず、「どうぞ先へ行ってください」と
楽をしようと思ったが、彼は直登するということでお互いお気をつけてと言って別れる。

(後ほどネットでその方の記事を見つける。私達がトラバースしている写真を掲載してくれて嬉しくなる。そしてこの日に少なくとも私達を含めて8人が入っていた事も知る)

途中に真新しいパタゴニアの残置ザックがあり、自分がそんな場所に居ると思うと足運びもより慎重になる。

有名なコの字箇所やザレた巻き道も落石やスリップに気を付けてゆっくり通過すれば問題なし、その後独標ピークを目指して左上する。

チムニーをSさんは軽やかにクリア、私は一度ずりっと滑りちょっと痛い思いをした。それを見てしまったKさん、

大事をとってロープ確保で登ったんだっただけかな？ 全行程で一度は荷揚げに(S:お助けヒモです)、2回確保の為にロープを出してもらった。

頂上はてっぺん感があり気持ちの良い場所。大槍が一瞬しか見えず残念だったが、ここまで来ることが出来て感無量だ。



またしても視界から消える勢いで登るSさん

ちょうどお昼頃、朝仕込んだアルファ米のお握りでパワーチャージ

★P11~P15

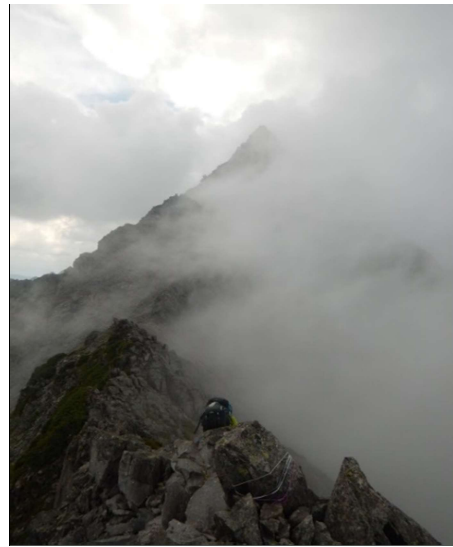
ここからはルートファインディングが難しい、らしい。確かに一見歩き易そうに見える巻き道が下方に見えるが
先がガスって見えない、ピナクル基部の踏み跡も回り込んだ先が見えなくて恐ろしい、などなど。

疲れているので感情的には巻きたい、下りたい、だが畏にはまっちゃいそうで悩みどころである。

私はP14かP15あたりではSさんに出来たら巻きたいと言ったような気がする(S:逆に大きく下る巻きなら直登で行きたいと言った
ような)。でも基本は尾根通しで行く、と言っても細かいアップダウンの連続と最も嫌いなザレ場、ガレ場の通過で集中力が途切れな
いよう意識して歩く。

そろそろクライマックスを迎えるというあたりでシャリバテ気味で空気も薄く足に力が入らなくなってきて失速。

すぐにとり出せる携行食がぼそぼそするドーナツしかなかったがハイドレの水で流し込んだ。これは反省点として次回気を付けよう。



北鎌平と思っていた場所（S:P15の先の地図上で平坦に見える部分）は間違いで、実際の北鎌平は意外と狭い場所だった。

16:00 数分前到着、リミットギリギリだったがひと安心。よほどの事がない限り今夜は小屋で眠れそうだ。

そういや、ここまで結構良さ気なテン場も所々にあった。温存していた水や食料も消費できるし、精神的に随分楽になる。Sさんがいつの間にか小屋に遅い到着になる旨電話を入れてくれており美味しい夕飯も食べられる。

あとひと踏ん張りだ。すると後ろから若くない男女二人組が追いついてきた。「私たち遅いのでお先にどうぞ〜」

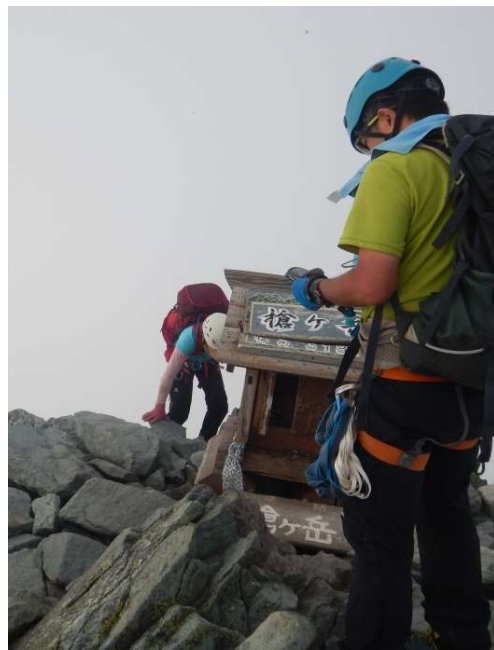
「いいですよ〜ルートゆっくり探しながら行って下さ〜い」みたいな余裕のお言葉をいただく。そんな事が言えるようになってみたい。

しかし結局は待ちきれずに有名なチムニーの方から登って行ってしまったようだ（S:自分たちはガスで上部が見えず、中央チムニーの取り付きが分からずに右端の残置スリングがあるほうから登った）。

人の声もするし肩の小屋もぼっちり見える。ここを上がってしまえばゴールと思うと少し寂しい。いや、もうお待ちかねのゴールでしょう。ここは安全を期してSさんにロープを張ってもらいアッセンダーを使って登った。



遂に祠の後ろからゴール！お疲れさまでした！とみんなで握手を交わす。頂上には5.6名の登山客がビール片手にこれから始まる夕焼けショーを観に来ていた。拍手は無かったものの労ってもらい一緒に景色を楽しんだ。嬉しいひとだった。チムニーに登りたかったSさん、次はいつ来ようかなと考えてた。かもしれない。慎重に穂先を下山し、ガスっている東鎌尾根をヒュッテ大槍に向かって急いだ。途中歩けなくなりお姫様抱っこされている女性がいた。その夜は興奮と目を閉じると岩に足を置いているイメージ映像が浮かんできて寝付けなかった気がしたが実際は良く寝ていたようだ。



アタック日は雨も雷もなくこんな夕焼けまで♪



高山病か、ちょっと気持ち悪いがとりあえず祝杯！

3日目 7:00 ヒュッテ大槍～9:00 天狗池～14:00 徳沢～16:00 上高地

4:00に早起きして小屋の前から日の出と昨日歩いた北鎌尾根を拝む。

名残惜しいが今日は帰らないとならない。東鎌尾根から水俣乗越を下る予定だったが、もうお腹いっぱいという事で槍沢ルート在天狗池へ寄り道しながら下山した。道中お楽しみの食ベタイム、槍沢ロッジで冷しうどん、徳沢でソフトを有難くいただく。順調に駐車場までたどり着き、竜島温泉せせらぎの湯で身も心もリラックスした後に最後の核心があった。中央道の大渋滞、なんと成田の自宅に着いたのがAM3:30だった。



最後に

体がキツくなると、最初で最後だとか、今後はキツイ山はやらないとかマイナスな考えが頭の中を渦巻きペースが遅くなる私を引っ張って終始トップで進んでくれたSさん、スピードが速いので時々見失い、私が SATO ファインディングしている間、ルート探しや動画撮影に集中できてちょうど良かった(^_^) とは後日談、そこも計算していたのでしょうか。

Kさんには後ろからアドバイスやサポートいただき安心して歩く事ができました。

北鎌が終わった時、ショックで髪の毛が全白髪になってしまうかも！？と心配事を伝えてみたらそんなことは無いと断言してくれました。感謝感激、二人について行って良かったです。準備期間も北鎌を意識したトレーニング山行や情報の共有はとても良い勉強になりました。

Nちゃんとは今回一緒できなくて残念でしたが、得意の岩稜歩きをぜひ行ってみてください。

昔の人が書いた著書やちば山の先輩達のアドバイスにも感謝です。同じルートを歩けたという事がとても嬉しい。

遠目に見るとゴジラの背中のように険しく見える尾根だけど、足元手元には沢山の花（特にヤシロオダマキにはうっとり）が咲き、自分たちしか居ない静かな稜線にハイマツから鳥の鳴き声だけが響く、再訪したくなる魅力がある素敵なルートでした。



天狗池



大槍！小槍！